

平成 22 年度第 6 回 (通算第 37 回) MT 委員会 議事録

日時: 10 月 15 日 13:30-15:00

場所: 仁科記念棟 2F 会議室 (201 号室)

出席: 酒井(委員長)、青井(櫻井代)、福西、神原、上垣外、加瀬、久保、森田、上坂(CNS下浦代)、上野、上藁、山口(CNS久保野代)、延與(オブザーバー)、稲辺(オブザーバ)、本林(オブザーバー)、寺西(UEC オブザーバ)

欠席: 久保野(CNS)、櫻井、下浦(CNS)、若杉、吉田(オブザーバ)

(順不同・敬称略。以下同様)

【報告と議論】

1. MT実施状況報告

- コミッショニング
 - ^{238}U コミッショニング (上垣外): ^{238}U ビーム加速の為のガスストリッパ開発を行なった。
 - SHARAQコミッショニング (上坂): SHARAQの設計分散整合を実現するための開発実験を行なった。
- ビームタイム
 - 10月のBigRIPS/SHARAQ 実験AVF入射シリーズ (福西)
シリーズの開始時にはトラブルがあったものの、最終的には97%のビーム供給を達成(遅れのみを加味しても88%)。また、最大ビーム電流は400 pA 近くに達した。
 - SHE 実験 status report (森田)
これまでの成果として得られている“1 event upper limit”値を用いると、今回のビーム積算は期待値 1/10 に相当。

2. この秋の ^{48}Ca シリーズ実験におけるBigRIPSの放射化 (稲辺)

- 来年夏に予定されているSTQ1-D1間ピローシール導入工事への影響
STQ1-D1間では実効線量を $[100 \mu\text{Sv/day} \ \& \ 200 \mu\text{Sv/h}] \times [\text{作業時間30分}]$ 以下としたい。2008、2010年上期のデータに基づき、半経験的な方法で見積もると、この秋の ^{48}Ca シリーズ実験による残留放射能を上記作業が可能な線量に留めるには、ビーム積算量が $4900 \text{ pA} \cdot \text{day}$ 以下 ($200 \text{ pA} \cdot 41 \text{ days}$ の6割程度に相当)でなければならない。
- STQ1の放射化保護
作業用シールドを用意するなどの対策を講じれば、F0-STQ1間では、 $460 \mu\text{Sv/h}$ 以下であればよい(作業空間、距離 50cm)。上の条件でこれはクリア出来る。
- 秋の ^{48}Ca シリーズでは、 $4900 \text{ pA} \cdot \text{day}$ を越えた時点でシリーズを打ち切る方針。打ち切りが必要な場合、MT委員長からアナウンスされる。(酒井)

3. RIBF において生成した RI ビーム生成のデータベース化計画 (稲辺)

- 各実験で生成された RI ビームのデータを基に、生成断面積・純度をデータベース化する作業が BigRIPS-T により進められている。現在 2008 年 11・12 月の実験については作業完了で、その他は解析中。
- ここまでの解析結果の公開は、今月末を目標に作業している。
- 11 月に BigRIPS 関連実験の MT 募集を行なう予定。BigRIPS-T は、これら基礎データを取る実験の申請を検討した方がよい。(酒井)

4. PAC 進捗状況 (上野)

- 8th NP-PAC (12/3-5 開催)
 - 10/8 Call-for-proposals 受付終了。申請20件
 - 10/12-19 装置担当者による技術審査。

➤ 終了課題の追跡調査、採択課題の再審査を準備中。

5. SRCのキャビティーのチェック・修理 (上垣外)

- 来る⁴⁸Caシリーズに向け、加速器調整中に作業を行なう予定。MT計画には出来るだけ遅れが生じないようにする。

6. 前回議事録承認

7. 次回MT委員会の日程

- 次回MT委員会は 11/19 (金) 13:30-15:00 で調整。

8. その他

(以上)